

# 令和7年度 箕面市議会行政視察報告書

## (文教常任委員会)

### 1 日程

令和8年2月2日(月)～2月3日(火)

### 2 視察先

#### (1) 静岡県磐田市(磐田市役所)

|      |   |
|------|---|
| 視察項目 | 部活動地域展開の取り組みについて  |
| 視察目的 | 部活動の地域展開に関する先進事例を調査し、制度設計や運営体制、指導者確保費用負担の在り方等について理解を深め、本市における今後の検討の参考とする。 |

#### (2) 神奈川県秦野市(秦野市役所)

|      |   |
|------|---|
| 視察項目 | 部活動地域展開の取り組みについて  |
| 視察目的 | 少子化の進行や部活動の持続可能性といった課題をふまえ、中学生がスポーツ・文化活動に継続して取り組める環境を研究し、本市の取り組みの一助とする。 |

### 3 参加者

|    |                              |
|----|------------------------------|
| 委員 | 山根委員長、中西副委員長、久野井委員、大脇委員、藤田委員 |
|----|------------------------------|

## 視察先名称 磐田市役所

| 項目  | 内容   | 備考   |
|---|--|--|
| 磐田市について                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口 164,056 人（令和 7 年 12 月末現在）</li> <li>・平成 17 年 4 月 1 日に旧磐田市、旧福田町、旧竜洋町、旧豊田町、旧豊岡村の 5 市町村が合併して新「磐田市」が誕生した。</li> </ul>   | <p>磐田市出席者<br/>磐田市議会<br/>民生教育委員長<br/>磐田市議会事務局長</p> <p><b>【説明】</b><br/>磐田市教育委員会放課後活動課部活動地域移行推進グループ 課長<br/>補佐兼グループ長</p> |
| 磐田市の部活動                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校 10 校 約 4,400 人（小学校 22 校）</li> <li>・部活動数 130 部活<br/>（運動部 105、文化部 25）</li> <li>・「スポーツのまち」として思い浮かぶ市町村ランキング 1 位（2023 年 株式会社ブランド総合研究所）</li> </ul>   |  |
| 磐田市の部活動改革「磐田市地域クラブ活動 SPO ☆ CUL IWATA」について | <p><b>【計画・スケジュール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国のガイドライン等を受け、令和 4 年から段階的に設計。</li> <li>・「グランドデザイン」→「ロードマップ」→「事業実施計画」と、順に整理して推進。</li> <li>・まず休日から地域クラブへ。できる種目・団体は平日にも拡大。</li> <li>・最終的には、平日休日とも地域展開していく方向（学校部活動が縮小・再編される前提）</li> </ul> <p><b>【直営の意味】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市教育委員会が事務局</li> <li>・磐田市では教育委員会が運営事務局を担う（募集・受付・参加費徴収・支払い・保険・相談窓口などを一括）。</li> </ul> <p>[ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ側に「会計」「保護者徴収」「保険」「連絡システム」等の負担が集中して立ち上がりや止まるのを避ける。</li> <li>・種目間・地域間の参加費格差をならし、仕組みを“パッケージ化”して回す。</li> </ul> |  |

|  |  |  |
|--|--|--|
|  | <p><b>【指導者の確保】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・指導者は公募・登録制で集め、研修会を年2回実施（参加必須）。</li></ul> <p>※登録者は約138名45教職員、35%外部指導者・部活動指導者等、残りは地域の一般指導者</p> <p><b>【参加者負担と謝金】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・共通で一律の費用（例：月2,000円）<br/>指導者謝金、保険、連絡・決済システム利用料など“全クラブ共通に必要な部分”</li><li>・クラブ別の追加費用（例：0円～3,300円、吹奏楽は月1,200円等）<br/>ボール・機材、通信、楽器関連など、種目特有の実費</li></ul> <p><b>【経済的支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経済的困難世帯への支援や参加費軽減を目的に、支援の仕組み（基金・ファンド）を設計中。</li><li>・対象を就学援助受給世帯などで想定し、将来的に必要な概算額の把握が必要である。</li></ul> <p><b>【今後の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・種目によって指導者確保に濃淡がある（当初想定したクラブ数を確保できない可能性）。</li><li>・平日展開を進めると、教職員の比率が下がったときに謝金水準や人材確保の持続可能性が課題になり得る。</li><li>・学校施設利用（19時まで学校優先等）や修繕費負担、セキュリティ、楽器管理など、制度移行に伴う運用設計が必要。</li></ul> |  |
|--|--|--|



### 【所感】

磐田市の視察を通じて、部活動の地域展開は単なる部活動の移行ではなく、少子化を見据えた子どもの活動環境づくりであることを実感した。教育委員会が事務局を担い、参加者募集や会計、保険、謝金支払いまで一括して運営する仕組みは、移行期の混乱を抑えながら制度を前進させる実務的な工夫として大変参考になった。一方で、学校管理外となることによる補償の違いや施設利用、指導者確保、費用負担の公平性など、丁寧な説明と制度設計が求められる課題も確認できた。箕面市においても、子どもの活動機会の確保を中心に据えながら、持続可能な仕組みづくりを段階的に進めていくことが重要であると感じた。

## 視察先名称 秦野市役所

| 項目              | 内容  | 備考  |
|-----------------|---|---|
| 秦野市について         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口 157,784 人（令和 7 年 12 月末現在）</li> <li>・中学校数 9 校 約 3,900 人</li> </ul>  | 出席者<br>秦野市議会議長<br>秦野市教育委員会教育長<br>秦野市議会議会局議事政策課参事（兼）課長<br><b>【説明】</b><br>教育指導課<br>教育部参事（兼）教育指導課長<br>指導主事 |
| 秦野市の部活動地域展開について | <p><b>【背景】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動は教育的意義が大きい一方、少子化で維持が難しくなる。目的は「教員の働き方改革のため」ではなく、子どものために活動機会を守ること。</li> </ul> <p><b>【進め方の方針】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼロか百かで一気に変えると混乱するため、丁寧に少しずつ。現在は 4～5 年目に入る段階。</li> <li>・当初は大学連携にも期待したが難しく、民間団体への移行（委託）も含めて模索中。ただし全面移行ではなく、子どもが続けたい活動を支える「新しいスポーツ文化の創造」をめざす。</li> </ul> <p><b>【現状把握（教員アンケート等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域展開に賛成が多い一方、学校部活動への不満も多く、地域クラブの指導に関わりたい教員は一部、関わりたい教員が多数という構図。</li> </ul> <p><b>【費用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の保護者負担は年 800 円程度（保険料等）。一方、指導者謝金は 1 回 3,000 円</li> </ul> |   |

(3時間+片付けで4時間枠)などで設計。拡大すると将来の負担増が論点になり得るため、理解形成が必要。

**【運用イメージ】**

- ・平日は従来の部活動、土日を地域クラブとして展開する“見た目は似ているが扱いが違う”形。大会参加などの整理は今後検討。
- ・吹奏楽や剣道、体操などで外部指導者・合同練習・大学での指導等が紹介され、専門指導のメリット（継続性・技術向上・卒業生が関わりやすい等）が語られた。
- ・全体として、「少子化で先々必ず行き詰まるので、国の制度も使いながら、地域の力（民間含む）を借りて、段階的に子どもの活動機会を守る」という取り組み。



**所感**

秦野市の部活動地域展開の視察では、「子どもたちの活動機会を守る」という目的のもと、急激な制度変更ではなく段階的に進めている点が印象に残った。平日は従来の部活動、休日は地域クラブとして展開するなど、現場の混乱を避けながら持続可能な仕組みを模索していることがよく理解できた。指導者確保や費用負担といった課題は全国共通であり、地域や民間の力をどう生かすかが重要だと感じた。少子化が進む中で部活動のあり方を見直す必要性を改めて認識するとともに、箕面市においても子どもを中心に据えた丁寧な議論を進めていく必要があると感じた。